

クリニカルパスに組み込まれている漢方薬

医療法人 社団顕鐘会 神戸百年記念病院 泌尿器科 医長
酒井 豊 先生

平成 8 年 神戸大学医学部 卒業
同年 神戸大学医学部付属病院泌尿器科 研修医
平成 13 年 兵庫県立尼崎病院泌尿器科 医員
平成 15 年 川崎医科大学付属病院泌尿器科 医員
平成 18 年 神戸百年記念病院(元:鐘紡記念病院) 泌尿器科 医長



神戸百年記念病院は、そもそも明治 40 年に鐘淵紡績兵庫工場の付属診療所として従業員の診察にあたったのがそのスタートである。以来、大正、昭和、平成と時代が変わっても、地域社会への医療奉仕活動を続けてきた。平成 18 年には医療法人社団として独立し、平成 19 年には開院 100 周年を迎える、その名称を「神戸百年記念病院」と変更した。

神戸百年記念病院では、いくつかの診療科で漢方薬が処方されているが、今回は泌尿器科における漢方診療について、泌尿器科医長の酒井 豊先生をたずね、お話をうかがった。

神戸百年記念病院の特徴

神戸百年記念病院の前身である鐘紡記念病院は、今の神戸市の影もない時代である明治 40 年に、当時すでに稼働していた鐘淵紡績兵庫工場の従業員の健康管理と診療を目的に開院されました。

その後、地域住民の診療も担うようになり、最近ではこの地域で、「なくてはならない病院になる」というメインテーマのもと日々診療にあたっています。その間、平成 7 年には阪神淡路大震災で病院も大きな痛手を被りましたが、入院患者さんだけではなく地域の方々の避難場所としても大きな役割を果たしました。

当院は、神戸市内のそれぞれの専門病院や大学病院と連携をとりながら、地域医療に貢献することを使命としており、それに合った診療科が多くあります。西洋医学と東洋医学をうまく融合することを目的とした「和漢診療科」があることも当院の特徴の一つです。

当院泌尿器科の診療の実際

当院の泌尿器科では、前立腺癌のような悪性疾患から、前立腺肥大症、尿路結石、神経因性膀胱や前立腺炎などの良性疾患の患者さんまで幅広く診療しています。患者さんご自身にできるだけわかりやすく病状を説明し、ご理解いただくようにして、患者

さんに応じた治療を心がけています。

なかでも当科では、尿路結石の治療は平成 15 年から ESWL (体外衝撃波腎尿管結石破碎術) を導入し、高い治療効果をあげています。ESWL とは、体の外から衝撃波を結石にあてて細かく碎くもので、侵襲性の極めて低い治療法です。鎮痛剤の投与のみで無麻醉下で行い、結石の大きさにもよりますが、1 回の治療は通常 1 時間程度です。尿路結石の治療には薬物治療もありますが、結石が薬剤ではそう簡単に溶けることは期待し難く、患者さんの苦痛を少しでも早く解消するために ESWL はとても有用です。当院では、年間 300 症例もの ESWL 治療を行っています。初回のみ 1 泊入院していただいているが、次回以降は外来で行い、患者さんの負担を少しでも軽減するようにしています。

泌尿器科領域における漢方薬

私が医学部に在籍していた当時は、漢方に関する講義はほとんどないに等しい状況でした。その後も系統的に漢方や東洋医学を学んだことがありませんので、漢方特有の考え方についてはあまり詳しくありません。

しかし先輩の先生方の処方などでは泌尿器科疾患でもいくつかの漢方薬が使用され、それなりの効果が得られていることを経験的に知っていました。たとえば、前立腺肥大症には八味地黄丸や牛車腎氣



丸、尿路結石には猪苓湯などが用いられていました。尿路結石に対する猪苓湯の効果については、ESWL 施行後の症例を 2 群に分け、猪苓湯投与群と非投与群で完全排石までの日数を比較した試験で、猪苓湯投与群は非投与群に比べ排石までの日数が有意に短縮するというデータが報告されています¹⁾。このようなことから、当科でも私が赴任する以前から尿路結石には猪苓湯が汎用されていました。

さらに、若年の慢性前立腺炎では、通常、抗菌薬の使用で表面的にはきれいになるのですが、会陰部痛、下腹部痛、排尿障害などの症状がいつまでも続きます。このような症状にも猪苓湯が効果的です。その理由としては、「局所のむくみ」が考えられます。たとえばタクシーの運転手や一日中パソコンと向き合って座り続けているような方では、このような「局所のむくみ」がよくみられます。そのような方では、症状がなにであれ、利水作用のある漢方薬が有効だと思います。

また、泌尿器科疾患の症状は個人差が大きいという問題があります。たとえば、前立腺肥大症で夜間頻尿を呈する患者さんでは、たった 1 回でも夜間に起きることで QOL が障害されたと感じる方と 3、4 回起きてもそれほど苦痛と感じない方がおられます。しかし、なかには神経質な患者さんも見られ、このような患者さんには漢方薬が有効である可能性が高いと思われます。

当科ではクリニカルパスに 漢方薬を組み込んでいる

尿路結石では、ESWL 施行により小さくなったり石が少しづつ落ちてきて膀胱あたりにくると、頻尿のような刺激症状を多く認めるようになります。したがって当科では、尿路結石の排石を促進させる目的以外に、このような不快感の改善を目的に猪苓湯を使用しています。猪苓湯の効能・効果は、「尿量が減少し、尿が出にくく、排尿痛あるいは残尿感のあるもの」となっており、これらの効能・効果は、まさに尿路結石の患者さんの症状にぴったりで、大変使いやすい漢方薬だと思います。

また、前立腺肥大症については、治療の第一選択は交感神経の α 受容体遮断薬ですが、それだけでは残尿などの改善が十分でない症例があります。そのような患者さんは、内視鏡下での経尿道的前立腺切除術（TURP）の適応となります。しかし TURP 施行 6 ヶ月～1 年後に、尿道狭窄を起こす症例が散見

されます。つまり、前立腺を切除することで尿道に傷がつき一種のケロイド状態が引き起こされている可能性があります。そこでそのような手術によるケロイド・肥厚性瘢痕を改善するために柴苓湯を投与しています。厳密な比較試験をしたわけではありませんが、尿路狭窄の予防がかなり期待できます。

このようなことから当科では、尿路結石の ESWL 後の猪苓湯と前立腺肥大症の TURP 後の柴苓湯の使用がクリニカルパスに組み込まれています。

今後の課題

漢方理論については、やはり難しいというのが正直な印象です。しかし、実際に使用してみると、患者さんの印象は大変よいことが多いです。とくにサイコロジカルな訴えが多い患者さんでは、服薬のコンプライアンスも良好です。また、今までに使用した漢方薬ではとくに問題となるような副作用も経験していません。

このようなことから、今後はもう少し使用する漢方薬の種類を増やすことも考えています。

たとえば、不妊症の原因の一つである精子無力症の患者さんが増えていますが、このような症例への補中益氣湯の使用です。

また、前立腺炎は「局所のむくみ」以外に血液の鬱滞である瘀血が関係しており、その改善薬である桂枝茯苓丸の使用が効果的であるという報告もあります²⁾。従来から慢性の前立腺炎の治療薬としては、セルニチンポーレンエキスのような植物由来の薬物が使用されていますが、漢方薬も同様の効果が期待できます。私の症例では従来、猪苓湯を使用していた患者に桂枝茯苓丸を投与すると症状の緩和がはかられたケースもあり、今後、もっと漢方に対する理解を深めていきたいと思います。

参考文献

- 1) 高田昌彦ほか：ESWL 後の排石に対する猪苓湯の効果 泌尿器科紀要 43:311,1997.
- 2) 原田一哉：慢性前立腺炎に対する駆瘀血剤の有用性－桂枝茯苓丸を中心として－ WE 7:9,2004.